

特集

徳島大学の就職支援体制

就職支援室

就職支援室長
横井川 久己男 よこいがわ くみお

就職支援室では、就職活動が順調に進むように、入学から就職先が決定するまでの間、さまざまなサポートを行っています。

就職関連情報の提供

就職支援室には、2000社あまりの企業個別ファイルがあり、求人票や会社案内等がファイリングされています。公務員・教員関係資料も都道府県別、分類別にキャビネット管理され、各募集要項は、自由に持ち帰りできます。また、企業就職試験・公務員採用試験・教員採用試験に役立つ問題集や参考資料を多数揃え、これらの貸出や就職関係資料の配布を行っています。さらに、インターネットによる情報収集、セミナー・会社説明会の応募などに利用できるパソコンも配置しています。本学生なら誰でも就職情報検索システムにより、企業から直接届いた求人票の検索、出力を行います。さらに、本学卒業生の就職先を研究するために、OB・OGの紹介を行っています。OB・OG訪問は、企業研究の方法の一つとしてとても有

効です。また、希望すれば、携帯電話で就職情報を受信することもできます。

就職相談

経験豊かな就職相談員やキャリアアドバイザーが、就職活動におけるさまざまな質問や悩みに対して、適切なアドバイスや情報提供等を行っています。また、就職活動を行う上で必要なマナー講座を開催すると共に、エントリーシートの書き方、模擬面接等、学生のみなさんの就職活動を初めから最後までサポートします。既卒者対象の求人情報も提供し、就職相談も受け付けています。

企業説明会と教員採用／公務員採用試験説明会

会社説明会や採用試験を受けるための交通費は、学生にとつて大きな経済的負担となるため、多くの企業から採用担当者を招いて学内での企業説明会、複数の自治体の担当者を招いての教員採用試験説明会や国家公務員・地方公務員採用試験説明会を実施すると共に、他府県で開催される企業合同説明会には大学から直行便の無料往復バスを手配しています。

キャリア形成支援プログラム

学生のキャリア形成を支援するどのキーワードが並びます。皆さんの積極的な姿勢こそが問われます。

大学における学習活動や課外活動を通じて、こうした「人間力」をぜひ培ってもらいたいところではあります。

自らのキャリアプランを組み立て、目標に向かって行動することが今こそ求められている、と認識してください。

就職支援室や就職セミナーを積極的に活用しよう

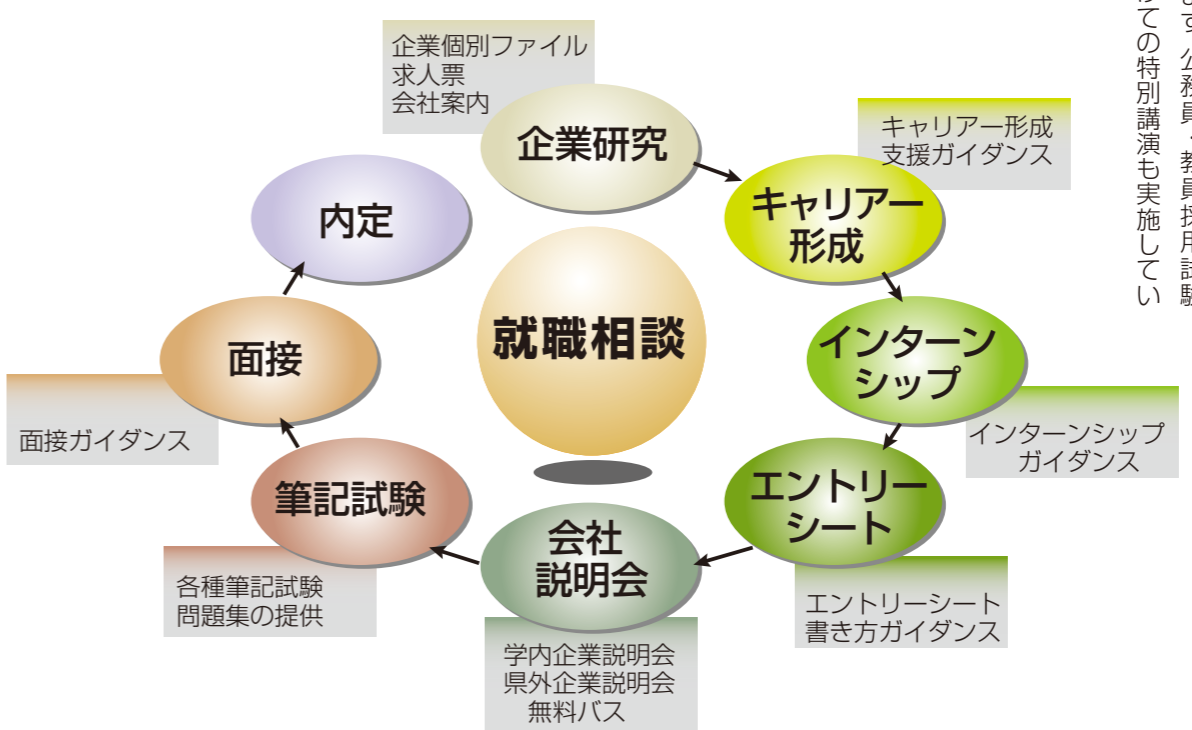
総合科学部では就職支援室と連携し、就職ガイダンス・セミナーや企業説明会への学生参加を促しています。民間企業については、就職サイトを通してのエントリーや採用選考が一般的であることから、ガイダンスに参加して準備を進めてください。就職支援室ではまた、求人票の紹介や就職相談にも乗ってまいります。

また、総合科学部では本年4月より、元銀行員の方に総合科学部就職相談室(3号館2階北東角)のキャリアアドバイザーとして就職相談や企業紹介(おもに県内・四国)にあたってもらっています。就職活動を行っている学生は、ぜひ就職相談室も活用してください。

総合科学部では公務員や教員を目指す学生も多いことから、卒業生や現職の公務員・教員を招いての講演会や試験対策講座を年4〜5回開催しています。こうした講演会や講座には、2・3年生もぜひ参加してください。自らのキャリアプラン設計に大いに参考になるはずですよ。

また、昨年度よりコース別に就職ガイダンスを開催し、今年も春・秋にガイダンスを開催しています。さらに、今秋には2・3年生を対象に業種別の「ジョブリサーチ講座」を開催します。これは、自分が将来就きたい業界に進むためのノウハウを企業人等から直接学ぶ講座です。皆さんのキャリアプランを実現するためにも、こうした機会をぜひ活かしてほしいものです。

就職活動の流れと就職支援室の支援体制



ために、本学の就職相談員や企業の採用担当者を講師に招いて種々の就職ガイダンスを実施しています。例えば、2010年度は「自分を伝える面接術」や「就職活動の進め方と選考側の視点」等を実施しています。公務員・教員採用試験にむけての特別講演も実施しています。

ます。また、インターンシップは、目指している職業や企業等とのマッチングを行う上で大切な活動ですので、手続きを含め様々な面からインターンシップをサポートしています。

総合科学部

総合科学部 就職委員長
平井 松平 ひらい まつら



「皆さんのキャリアプランをサポートします」

社会人になるための準備を進めていますか？

文科省によると、今年3月に卒業した大学生の就職率は91.8% (4月1日現在) で、前年度の95.7%、前々年度の96.9%に比べて4〜5%も下がりました。総合科学部の就職率も、この全国平均とほぼ同じ傾向にあります。言うまでもなく、一昨年9月から続く経済不況の影響で、こうした傾向はまた数年は続くと考えられています。雇用環境は「売り手市場」から「買い手市場」へと転換し、企業側は「厳選採用」を掲げています。

では、どういった学生が採用されるのか。当たり前のように、「基礎学力」「コミュニケーション能力」「チャレンジ精神」「行動力」「問題発見・解決能力」「多角的な視点」「柔軟な発想力」「協調性」な



バスツアー



バスツアー



バスツアー

医学部 学生委員

寺尾純一 じりお じゅんいち

医学部栄養学科の就職状況と支援取り組みについて

徳島大学医学部は医学科、保健学科と栄養学科から構成されています。すべての学科が専門職養成コースとしての傾向が強く、国家試験合格による資格取得が大きな目標となっています。

したがって、その後の就職へ向けた取り組みも各学科により大きく異なっています。

栄養学科の卒業生はそのほとんどが管理栄養士資格を取得し、その専門性に関係した職場に就職することが多いが、必ずしも、それに当てはまらないケースもみられます。

これは、大学入学時における学科選択とその後的大学生生活を経た進路の最終選択が必ずしも一致しないことによると推測されます。したがって、学科教職員側としても学生の希望に沿って幅広く就職活動を支援することを心がけています。

現在、栄養学科及び栄養生命科学教育部大学院における各方面か

らの就職採用情報は学科事務室を介して各学生に回覧通知するシステムをとっています。

学部生は3年の後期1月から研究室に配属し卒業論文作成のための研究に進みますが、食品企業等への就職をめざす学生は同時に就職活動も活発化します。

県や市等の栄養士関係公務員採用試験は夏に集中するため、公務員をめざす学生はその準備がスタートする時期でもあります。

一方、病院勤務管理栄養士の場合にはその採用案内は年間を通じてあるため、卒業間近になって就職先が決定することも多くあります。

昨年度の場合、52名の卒業生の内訳は、病院等管理栄養士8名、県市等の公務員5名、食品栄養関連企業3名、その他の企業4名、大学院等進学29名、未定3名でありました。

本学科は他大学に比べて大学院進学率が高いのが特徴で、すなわち栄養学研究に関心をもって進学する学生が多い傾向です。

ただし、2年間の博士前期課程修了時に就職希望する場合には、学部学生と同様に1年次の正月明けから就職活動が活発化し、厳しい就職戦線にさらされることとなります。

なお、本年度の本学科卒業生の就職希望者の就職率は82.6%でありました。

本年8月6日の文部科学省発表によれば今春の学部卒業生の就職率は60.8%であり、その下げ幅は過去最大でした。

全国的にはきわめて厳しい就職状況にありますが、本学科では3年次のインターンシップ(企業見学や企業研究者による特別講義)、臨地実習(保健所実習、病院学校での給食実習等)を通じて職場を体験させることにより、就職への意識を高めることを心がけています。

社会の趨勢であることが、早めに就職・進学の具体的な目標を決定することが学生本人の自覚を促して良い結果につながると考えられるため、その観点から学生の指導に当たるように努力しています。



就職情報の閲覧風景

や総合職で就職する歯科衛生士も現れ始めています。総合病院の歯科口腔外科に関しては、関西では20以上の病院が歯科口腔外科を設置しており、病院歯科での歯科衛生士の需要を開拓中である。更に一般の歯科診療所では歯科衛生士の募集が年間を通じて行われています。

薬学部

薬学部 就職委員長

落合正仁 おちあい まさひと

薬学部では薬剤師養成のための専門教育を行うことを目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を行うことを目的とする4年制の「創製薬科学科」を平成18年4月に設置しました。これに伴い、今年3月には4年制「創製薬科学科」の第一期生40名が卒業しております。現時点では薬剤師国家試験の受験資格を持たない、初めての薬学部卒業生であり、就職に関してもこれまでとは若干異なる状況が現れることと予想されます。本年度はこのうち37名の学生が大学院博士前期課程(修士課程)に進学しております。なお、6年制「薬学科」では平成24年3月に第一期

歯学部 学生委員

田中栄一 たなか えいじ

歯学部歯学科ならびに口腔保健学科生の就職について

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科があり、今回、各学科の学生の卒業後の進路・就職について、各担当者(歯学科：河野文昭教授・口腔保健学科：吉田秀夫教授)に話を伺ったので報告します。

歯学科

平成18年から、歯科医師法の改正により歯学部卒業後に1年以上の臨床研修が義務化されました。本臨床研修では「患者中心の全人的医療を理解し、独立して一般歯科診療に従事し得る態度と技能および知識を習得し、歯科医学、歯科医療の進歩向上等に対応できる資質の高い歯科医師を目指した生涯研修の第一歩とすること」を目的として制度設計が行われています。自分の歯科医師としての将来像に合わせた研修先を自由に選択できる点では、各の将来像に沿った有益なシステムです。現在、全国で310件のプログラムがあり、歯科医師臨床研修プログラム検索サイト(参考1)で閲覧すること

生が卒業することになります。このような状況を踏まえて、薬剤師の資格を持たない院生(特に修士課程)への就職支援体制をこれまでより一層強化するために、薬学部では①製薬企業合同説明会(徳島大学就職支援室と連携し、11月4日に薬学部スタジオオプラザで開催。現在、採用実績のある多数の製薬企業に参加を依頼中)を実施します。②薬学系学生のための就職活動対策講座(7月22日と12月9日に薬学部第一講義室にて実施。講師：小峪奈緒子氏、株式会社毎日コミュニケーションズ)を開催します。③先輩を囲む就職説明会・懇談会(10月16日に薬学部スタジオオプラザで実施。「就職 先輩からのメッセージ」を開催します。④インターネットを活用して、薬友会会員(薬学部卒業生)との交流ネットワークを構築しておりあります。これにより、薬学部卒業生から最新就職情報の収集が可能になると共に、企業訪問・OB訪問などを充実させます。⑤薬学部就職資料室(薬学部一階：製薬企業・病院・薬局等の会社案内・求人票、地方及び国家公務員採用情報、月別求人一覧表などの収集・作成)を設置しております。⑥学内メールを活用して、就職委員会より最新求人情報を、各研究室及び学生に直接伝えていきます。⑦各学年毎(学部

ができるので、是非参照してください。

さて歯学部では、研修支援として毎年11月の下旬に歯学部学生委員会と歯学部同窓会の主催で研修のための歯科医師臨床研修マッチングプログラムの説明と卒業生の研修についての体験を聞く就職ガイダンスを開催しています。4、5年生を中心に多くの学生さんが参加しており、活発な質疑応答が行われています。また、6月下旬の登録前に6年生を対象として歯科医師臨床研修マッチングプログラムの説明会を行っており、マッチングの仕組み、登録日程や注意点について概説しています。徳島大学の説明会を行っており、マッチングに関わる試験を実施しており、定員58人に対して100名前後の学生が受験し、幸いにマッチング率はここ数年100%となっています。

歯科医師臨床研修マッチングプログラムとは歯科医師免許を得て歯科医師臨床研修を受けようとする者(以下、研修希望者)と歯学・医学の履修課程を置く大学に附属する病院又は厚生労働大臣の指定する病院や診療所の研修プログラムを研修希望者および研修施設の希望を踏まえて、コンピュータに

2〜4年次に就職状況の説明会を開催しております。

不況が続く、就職が難しい時代になっておりますが、薬学部就職委員会(教員6名で構成)・所属研究室教員・事務部第三総務係が相互に連携し、高石学部長を先頭にして薬学部が総力を挙げて皆さんの就職活動を支援します。



昨年度の「就職 先輩からのメッセージ」講演会



講演会後の座談会

口腔保健学科

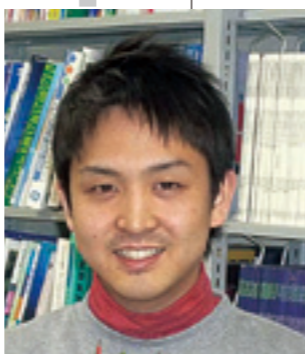
本学の口腔保健学科は全国で5番目の4年制大学・歯科衛生士養成課程として平成19年4月に開設され、第一期生も4年目を迎え、残り半年余で卒業することとなります。歯科衛生士は本来自治体の保健所などを拠点に歯科疾患の予防処置を行うことを業務として昭和23年に保助法と同時に法律が制定されました。その後、看護師と同様に歯科医師の診療補助業務が、更に保健師と同様に歯科保健指導が業務として認められ現在に至っています。平成18年度末のデータでは、歯科衛生士の就業人口は約87,000人で、90.3%が一

般の歯科診療所、4.9%が総合病院や大学病院、2%が市町村の保健センター等、0.8%が歯科衛生士学校や養成所、0.6%が保健所、0.5%が事業所、0.2%が介護老人保健施設、その他が0.7%となっています。本学科の卒業後の進路としては現在準備を進めている大学院修士課程への進学、就職先としては行政における保健所・保健センター、福祉施設、歯科衛生士または社会福祉士養成機関における教育者、歯科関連企業、大学病院や総合病院の歯科および一般の歯科診療所などを考えています。このうち、行政での歯科衛生士採用枠は極めて少なく、多くの自治体では欠員が生じた時点での募集のみで、その倍率も数十倍となることもあります。但し、市町村保健センターや民間の老健施設に就業する歯科衛生士の数は着実に増加しています。また、平成22年4月迄に歯科衛生士の修業年限が2年から3年となり、歯科衛生士養成学校での教員の需要も増えることと予測される。更に歯科衛生士養成短期大学には4年制大学への移行を計画しているところもあり、学士や修士を有する歯科衛生士教員が必要になると考えられます。歯科関連企業への就職はわずかに企業の運営する歯科診療所が主だったが、最近では企業に一般職



就職活動における インターンシップの重要性

大塚製薬(株)
中村 和也 なかむら かずや



私は今、大塚製薬の製剤研究所に所属しており、新薬開発のために日々研究を行っています。現在このように就職できたのも、学生時代にインターンシップへ参加して、その場で自分という人間をアピールできたからだと思っています。

2008年11月、私は大塚製薬研究技術職インターンシップに参加しました。きっかけは、自分が就職を希望していた医薬品業界における大塚製薬の製剤研究をもっと知りたいという単純なものでした。実際参加したことにより、大塚製薬で働きたいという思いが確固たるものとなり、その後の就職活動の大きな活力となりました。

また、単なる就職体験にとどまらず、積極的に質問等をして自分をアピールしたことも事実です。

2008年以降、就職氷河期の再来とも言われており、現在厳しい就職活動を余儀なくされている学生も少なくないのではないのでしょうか。今振り返ると、このインターンシップに参加していなければ、現在私は大塚製薬にいない

職業： 大塚製薬(株) 製剤研究所 製剤Ⅱ室
出身地： 徳島県板野郡上板町
略歴：
2008年3月 徳島大学 薬学部 薬学科 卒業
2010年3月 徳島大学大学院 薬科学教育部
医療生命薬学専攻 博士前期課程 修了

と思うし、人生の分岐点だったと感じます。インターンシップに参加することは、自分の職業適性の見極めにつながるし、一方で大きく自己アピールできるチャンスでもあります。

就職活動を控えた学生の皆さん、インターンシップ等のチャンスがあれば是非参加してみてください！その後の人生が大きく変わるかもしれませんよ。

就職活動記



特集
就職

徳島大学の 支援体制

■徳島大学の就職・進路情報は以下のURLでご覧いただけます。
<http://www.tokushima-u.ac.jp/category/0010861.html>



企業合同説明

工学部
工学部 教務委員長
福見 稔 ふくみ みのる

工学部(および先端技術科学教育部)における就職支援

工学部では就職支援を行うための部局全体の担当者はおりません。その代わり、各学科・コースに就職担当教職員が数名おり、学科・コース毎に学部生と博士前期課程学生への就職支援を実施しています。博士後期課程学生には指導教員が責任を持って就職活動の支援をすることになっています。

各学科では、まず学部3年生を対象として、企業見学(工場見学)とインターンシップ(企業での研修・業務体験)を実施しており、実社会のプロフェッショナルな空気に触れさせ、学生自身の将来の社会人イメージを形成できる場を設けています。大学院でも、キャリア教育に関する科目(「知的財産論」「コーポレシヨナル経営」「技術経営特論」「長期インターンシップ」「ビジネスモデル特論」「企業行政演習」など)を設け、学生に将来の進路設計を行うきっかけを与えています。

ます。次に、3年生の終わり頃から学科・コース独自の就職説明会と支援を開始します。各学科・コースの就職担当は、学科・コースおよび工学部に届いている企業からの採用情報を参考に、学生の希望する企業に対し推薦を行い、実際の就職活動(面接など)がスタートします。ただ最近では、学科推薦を利用せずに学生自身が各企業のウェブ情報等を参考に各企業に直接エントリーする場合があります。増加しています。この場合、一般に学科推薦より早い時期から活動を開始する学生が多くなっています。さらなる学生支援を実施するため、S.P.支援、授業や工場見学の中でOBによる就職説明と成功体験を語る会、実際に就職活動を体験した現役学生による講演会(就職活動体験談)を実施・計画中です。

ただ残念なことです。2008年の世界的金融危機以降、就職状況が悪化し、平成21年度の工学部就職率は92.6%となっています。つまり就職を希望する卒業生の内、就職先が決まらずに卒業した学生がいたことになりました。この数値は毎年変動しますので、平成22年度の就職率は分かりませんが、厳しいことには変わりないと思われる。国内企業のグローバル化により、一部の企業では日

本人の採用枠を減らす傾向があるように思われます。そのため、入学時に就職状況の説明を行い、教務委員長からも企業の欲しい人材像を明確に説明し、漫然と過ごす学生生活は避けるように促しています。

工学部では、今後も学生の就職支援を継続し強化していくとともに、キャリア教育の面からも学生の就職支援を行ってまいります。さらに平成22年度より、S.T.C(スーパーテクノロジーコース)を設置し、7年間(従来だと原則9年間)でドクター学位を取得できる制度が日亜化学工業株式会社の支援によりスタートしました。このコースは通常より短期で学位取得することができ、その間、毎年120万円の奨学金(返済不要)を受け取ることができます。本S.T.Cは学生側と採用企業側の両者にメリットがあり、学生への就職支援策としても大変有効に働くことが期待されています。



就職ガイダンス



就職支援室